

令和7年度 第2回長井市社会教育委員会議事録

【議事概要】

日時：令和8年3月12日（木）13:30～15:30

場所：庁議室

出席者：

■委員：平みわ委員長、小野明彦委員、梅津ひろみ委員、竹田信一委員、大津君彦委員、鈴木麻恵委員、工藤友子委員、平吹登委員

■事務局（各関連部署担当者） 新野弘明（地域づくり推進課長）
鈴木千鶴子（観光文化交流課補佐）、風間陽一（地域づくり推進課生涯学習推進室長）、
今野透（学校教育課補佐）、鈴木政輝（健康スポーツ課スポーツ推進室係長）
武田誠広（地域づくり推進課生涯学習推進室係長）

協 議

（１）長井市の社会教育（生涯学習）について

事務局（地域づくり推進課、観光文化交流課、健康スポーツ課、学校教育課）より資料を基に説明

○委員

観光文化交流課の方にお伺いします。資料のなかで、白山森の環境整備事業を行ったということですが、どのような整備を実施したのか教えてください。

●事務局

環境整備として、下草刈りなどの対応を実施しました。城壁を何かわかるようにするとか、そのような整備を実施したものではありません。

○委員

わかりました。

（２）令和8年度社会教育関連事業について事務局より説明

○委員

自治公民館連絡協議会の解散総会を6月に予定しているとのことについて地域づくり推進課にお伺いします。現在市内に72の自治公民館があると思います。活動はあまり活発ではないと思いますが、各地域の拠り所ところというか、ある程度会合などを開催しているとも思います。そのようななかにあって解散に至った理由というのはどういうこと

なのでしょうか。

●事務局

ご指摘とおり、市内各地区には自治公民館がありまして、それぞれ活動を行っているところです。市の連絡協議会解散の理由といたしましては、以前ほど活動が活発ではなくなってきたこと、並びに今現在実施しておりますバレーボール大会や総会での表彰について、コロナ禍以降は規模が縮小してきたこと等により、市全体の協議会ではなく、各地区の連絡協議会で、十分その役割を担えるのではないかということが主な解散の理由です。

また、市の自治公民館連絡協議会は、各地区から役員を選出いただくわけですが、そういったところのご負担も考慮いたしまして、いろいろご意見をいただきながら協議を重ねてきまして、解散予定という形になったところです。

○委員 A

わかりました。自治公民館の機能というか建物自体はそのままだと思うのですが、各地区の公民館連絡協議会は各コミセンで司っているから、自治公民館関係の会議などはなくなるということなのでしょうか。

●事務局

分館の連携については、各地区にある自治公民館連絡協議会で協力できると思います。市全体の連絡協議会については、地域づくり推進課で担当していますので、機会があれば各自公連の方と情報共有できますし、各自公連の事務局は、各コミセンの職員の方が担っており、毎月コミセンの館長会と担当者会を行っていますので、そういった情報共有につきましては、令和8年度は、コミセンの担当社会等で共有していこうと考えています。

次の組織をどうするかということについては、内部で調整して、市三役等に相談しましたが、現段階で具体的に自治公民館の目的とか、今後どのように進めていくかというところを目的にしていかないと、例えば次の協議会等を立ち上げた場合に具体的に見えないものですから、まずは1年間かけて、今後どのようにあるべきか、というところをコミュニティセンターの担当会の中で検討していこうと考えているところでございます。

○委員 A

わかりました。ありがとうございました。

○委員 B

地域づくり推進課の資料の中で、次年度の地域学校協働活動推進員の方の交代について伺います。地域学校協働活動推進員の方の活動は、市内各小中学校によってだいぶ違います。もっとリードしてもらいたいという思いもあります。他の学校でやっているようなことを他の学校にも取り入れてもらいたいと思いますが、地域学校協働活動推進員間の情報交換の場というのは、どの程度持たれているのでしょうか。

●事務局

学校・家庭・地域の連携・協働推進事業ということで、地域学校協働活動推進員に（致芳小はコミセン職員に担っていただいています）各学校に行って活動していただい

います。その中で情報交換会として年2回（年度初め5～6月頃と年度末3月）ほど実施しまして、各学校の状況を共有させていただいております。本来であれば、学校教育課のほうで推進員の意見交換会を実施していた経緯がありますが、現在は地域づくり推進課で独自に意見交換会を年2回実施しているところです。内容といたしましては、市側から事務的なことをお伝えし、推進員の皆さんの課題と現状、他の学校でどういうことをしているか、というところで話をさせていただいております。

情報交換会の中で、一番課題となっているのは、学校の中に地域の方をどういうふうに呼び込むかということになりまして、他の学校はどのようなことをしていますか、という話題が多くなっています。

各地区、各学校の特色ももちろんございますので、それをすり合わせながら、より良いものにしていこうということで、意見をお伺いさせていただいております。以上です。

○委員 B

わかりました。ありがとうございます。

○委員 C

今の話題に関係してですが、私も学校教育活動推進員の方々の情報交換会のことは存じあげていません。この情報交換会で交換された課題が学校運営協議会では一切共有されていないのが実情です。こういったものを地域の人、学校の人が話せる場で共有していくことで、より深めることができるのではないかと、という感想を持ちました。可能であれば共有していただけるとありがたいと思いました。

●事務局

ご意見ありがとうございます。この意見交換会は、付属的なものとして推進員の業務を補完している形となっておりますので、次回の情報交換会は来週を行います。学校及び教育委員会にもつながるようにしていきたいと思います。

○委員 C

よろしくお願いします。

○委員 A

関連で、私も1年間地域学校協働活動推進員をやらせていただきました。2回程度会議を開きますが、議事録などは各学校の地域学校協働活動推進員には共有されていないと思います。スクールコミュニティの部分で誰が中心になってやるのか、というところで、地域学校教育活動推進員がもともとは中心になってコミュニティ作りをやっていくという趣旨だったと思います。致芳小学校の場合はコミセンの職員担っていると思いますが、もう少し行政の方で関わっていないと、なかなかうまくいかないと思います。

●事務局

長井市は、地域学校協働活動推進員はかなり活動していただいていると認識しています。山形市などは年間数十時間程度の活動と伺っていますが、長井市は年間780時間とかなり多くの活動をいただいております。

また、先日全国の推進員フォーラムに行ってきました話を聞いてきました。内閣府から提示がありまして、今後は地域の団体を主体としたものに変えていかないと活動が継続していかないだろう、というような話がありました。長井市では、各コミセンも地域団体という括りになりますが、そういったところを介していろいろ今後やっていくのが望ましいという話がフォーラムの中でありましたので、地域によって特色はあって、一概にどれが正解とはならないと思いますが、いろんな交流を持っている団体をメインとして活動をしていくということが一つの道筋なのかなと思っています。

○委員 A

先日市議会を拝聴した際、議員の質問の中で、協議体みたいな形でスクールコミュニティ進めていってはどうかという質問がありました。それに対する答弁は、コミセンに学校を関連させてということをやってからということでした。

今事務局から説明ありましたが、将来的に地域で子どもたちを育てていくということでしたら、協議体のようなものを行政、教育委員会で考えていっていただいた方がいいのかな、と私は思います。

●事務局

ありがとうございます。学校と地域の協議の場が学校運営協議会であって、地域課題、そして学校の課題を解決していくために、いろんな地域の主体、代表の方等が集まってみんなで協議する場、これが学校運営協議会なので、ここがエンジンだろうというふうに思っています。新しい協議体が必要なのではなくて、今ある学校運営協議会の中をどう充実させていくのかというのが非常に大事なことだと思います。致芳地区の形も一つの形ですし、またそれに限らずいろんな形があっていいと思いますので、それは地域性ということもあります。

ただ、やはり学校運営協議会の場が非常に重要であるということは認識しておりますので、これからもそのために必要な取り組みは教育委員会でも行っていく必要があると考えています。

○委員 A

わかりました。

(3) 意見交換「くるんと」について

○委員

災害に強い街づくりの情報が欲しい。普段からもし地震があったらどういうことをしなければならないか、と話し合って語り合う、あるいはそのための資料、そういったものを例えば被災地からお借りして、あるいは映像で取り込んで映し出すとか、講演するとか、そういうことが必要なのではないかな、と感じております。防災学習の学びの拠点になるような施設であってほしいと普段から思っております。

○委員

「くるんと」は多くの方が利用すると思いますが、衛生面に関して気になる点もありますがどのような対応をしていますか。

●事務局

「くるんと」の清掃について、定期的を実施しておりますボールプールの消毒などに関して、伝わっていないことも多々あると思います。コロナとか感染症の流れがありましたので、かなり利用者も敏感になっているところがありますので、くるんと側には衛生面での周知を強めにとということをお願いしたいと思います。

○委員

「くるんと」を団体で使うとなった場合に、拠点としての使い方はなかなか難しいと感じています。ただ、なるべく「くるんと」を使ってという意識はありますので、活用したいと考えています。

○委員

「旧長井小第一校舎」に絡めてですが「くるんと」との関わりに関しては、昨年夏休み期間に子どもたちの学習支援という形で、子どもたちが学習に取り組めることを何とか一緒にできないかということで、ご相談にさせていただきました。次年度もいろんな学習のイベントをお互いに連携して取り組んでいけたらいいかなと思っています。

○委員

昨年、地域おこし協力隊が企画した7日間の体験をさせていただきました。その際、長井の水路のことや長井市の歴史、昔の子どもたちの様子など、いろいろ教えていただきました。例えばですが「くるんと」で専門の詳しい方々が、子どもたちに向けてそういった地域の魅力を伝えていただいて、学んだ子どもたちがそれをどう発信しようか、ということができるといいなと思いました。

歴史とか文化ということを案内人の方にお話しいただき、観光関係の方に、子どもたちに文化とか歴史の学びみたいな、いろいろな活動を教えていただければと思います。

●事務局

文化的経営観の観点から、昨年までは平野小学校の6年生の親子行事に絡めて平野地区の文化的景観になりうるところをグループワークで巡って実施しました。

令和7年度は長井小学校4年生の総合学習で、長井市の中のいろんな文化的な施設景観に関連するようなところを班に分けて巡っていき、その後班ごとに巡ってもらって、ところどころに観光の職員及び関係する方がいて対応する、ということを実施しました。ただ、今後についてはもっと検討をする必要があると考えています。夏休み期間にどれくらい数の大人がそれらに関われるのか、市の職員も毎日それらに関わっているわけにはいかないところがありますので、その辺をどういうふうに皆さんにご協力をいただいて、それがイベントとして、「旧長井小学校第一校舎さん」、「くるんとさん」等と連携して進めていけるのか。この辺りにつきましては、いろいろな方のご意見を伺いながらよりよい方向に進めていければと思います。

○委員

夏休み期間の星空教室を「くるんと」を活用、使用させてほしい。

●事務局

多くのご意見をいただきありがとうございました。十分に回答できていない部分もありますので、内部で調整しながら、「くるんと」のほうと、いろいろ調整できる点もあると思いますので、可能な部分はしっかり対応させていただきたいと思います。